価値創造の全体像

価値創造プロセス

当社グループは、サステナビリティをめぐる課題への対応が、中長期的な企業の存続に関わる重要な経営課題のひとつである との認識のもと各種施策に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献するとともに、企業価値の向上を目指しています。

外部環境の変化やステークホルダーからの要請を踏まえ、長期ビジョンとして掲げている「すべての生活空間に快適さを提供する リーディングカンパニーを目指して」を実現するために、当社グループの強みを活かし、新たな価値の提供に挑戦し続けます。

リケンテクノスを 取り巻く外部環境 脱プラスチックの動き 環境意識の高まり

デジタル化の潮流 EV化の進展

国内市場の縮小 アジアの成長

研究開発

業界の再編

東証からの要請

購買

長期ビジョン →P21

すべての生活空間に快適さを提供する リーディングカンパニーを目指して

10年後のありたい姿

- 新しい発想とアプローチで、「ものづくり」と「価値創造」を実現する
- 社会・環境の変化に柔軟に対応し、サステナブルな社会に貢献する
- 従業員一人ひとりが「やりがい」「誇り」を持ち、共に「成長」する

インプット



財務資本

総資産額:1.164億円



製造資本

有形・無形固定資産: 332億円

生産拠点:15拠点 (国内:7、海外:8)



知的資本

研究開発費:19億円



人的資本

従業員数:1.886名



社会関係資本

海外拠点:12拠点 サプライヤー数:約900社



自然資本

原材料:302千t 総エネルギー投入量:

水資源投入量: 1.053t

1.591千GJ

(2024年度)

事業活動

製品廃棄・ リサイクル

製品使用

営業

リケンテクノスの強み

高い技術力

●処方設計技術:

高度化に的確に対応した設計を行っています。

●配合 • 混練技術:

お客様での加工適性を高めるため、最適な混 ●顧客基盤: 練状態にてコンパウンドを提供しています。

●フィルム製膜・加工技術:

フィルム製膜、ラミネート、塗工技術の総合的 提供しています。

グローバル展開する優良顧客に対して、 顧客の望むものを届ける力

生産・

品質管理

物流

●グローバル展開:

様々な原材料を使いこなし、ニーズの多様化と 日本以外にもASEANをはじめとした世界各国に生産拠点 を有しており、お客様の要望に対して最適なソリューション を提供する体制を整えています。

競争力があり成長を続けているグローバル日系企業と友好 な関係を構築し、各種製品を提供し続けています。

●顧客対応の技術:

追求により、付加価値の高い機能性フィルムを顧客の要望に対して製・販・技、一体となって丁寧に対応 し、お客様ごとにカスタマイズした製品を提供しています。

アウトプット

トランスポーテーション



• 車両用電線

• 自動車用成形部材

デイリーライフ& ヘルスケア →P40

- 医療用
- 食品包材



エレクトロニクス →P41

- 電力·産業電線 (ASEAN)
- 情報通信/ モビリティ/ ロボット・FA



ビルディング&

- コンストラクション →P42
- 建装用フィルム
- 住宅·建築資材



アウトカム

→P19

3ヵ年中期経営計画 最終年度(2027年度)目標

• 売上高 1.500億円

120億円 • 営業利益

経済価値の提供

• 経常利益 120億円

• ROE 8% • ROIC 11%

社会価値の提供

⇒P20

すべての生活空間に"快適さ" (品質・スピード・ソリューション・ 社会課題解決への貢献)を提供







→P83

ステークホルダー

ステークホルダー

株主・ 投資家



お客様



取引先



従業員



地域社会



企業文化の醸成/コーポレート・ガバナンス/リスクマネジメント/コンプライアンス →P57~60、P65~82

新3ヵ年中期経営計画「One Vision, New Stage 2027」/マテリアリティ ⇒P25~30

リケンテクノス ウェイ(ミッション/コア・バリュー/基本行動) →P9~P10

13 リケンテクノスグループ 統合報告書 2025

リケンテクノスグループ 統合報告書 2025 14

価値創造の全体像 価値創造プロセス

経営資本から展開される事業活動

資本(2024年度)

資本の高度化に向けて

財務資本

■ 積み上げてきた安定的な財務基盤

総資産額

1,164億円

自己資本比率

55.7%

D/Eレシオ

0.21倍

これまでの経営を通じて築き上げてきた安定的な財務基盤を維持しながら、現 預金圧縮、Cash Conversion Cycle改善、政策保有株式圧縮、借入金調達 等のバランスシート改革を通じた資産活用の効率化を進め、捻出した資金を積 極的に成長/戦略投資および株主還元に配分していきます。

重点テーマ

- 政策保有株式の縮減による成長投資の 原資創出とキャッシュアロケーションを 通じたPBR1.0倍の実現
- 資産効率の追求 (目標ROE8.0%以上)
- 財務レバレッジの最適化



製造資本

■ グローバル拠点連携による リスク分散と迅速な顧客対応

有形固定資産

305億円

無形固定資産

26億円

生産拠点

15 拠点 (国内:7、海外:8)

当社グループでは、製造の基礎となるグローバル製造プロセス指針「リケンスタン ダード」のもと、製造/品質の向上を図るとともに、製造における課題をグループ 全体で共有し、解決を目指す取り組みを強化しています。また、国内では自動化 設備・設備故障予兆管理システムの導入、工場ユーティリティ設備の再構築の 検討を積極的に進めています。

重点テーマ

- 国内・海外での生産設備の増強
- 最新鋭の機器・設備の導入と製品の安定生産・提供
- ・塩化ビニルコンパウンド生産設備を増設(ベトナム、米国)
- ・熱可塑性エラストマーコンパウンドの生産設備を増強(国内)
- ・DXによる省人化・合理化投資の実施

知的資本

- 蓄積されてきた配合加工技術や 生産技術のノウハウ
- 保有特許による事業優位性の確保

研究開発費

19億円

保有特許数 (国内外)

650件

外部機関との 協業件数(累計)

13件

当社は、蓄積してきた配合加工技術・生産技術のノウハウの特許化を進め、事 業優位性を確保しています。また、オープンイノベーションによる知財創出を重 要開発戦略のひとつとして位置づけ、外部機関との連携によってもたらされる新 たな発見、イノベーションから得られた知見を活用して新製品・新技術の開発 力を高めていきます。

重点テーマ

- オープンイノベーションの推進(産学連携・産産連携による共同研究)
- 研究開発におけるDX (AIやMI) 活用によるデータ駆動型の研究環境の 慗備
- 最新鋭の試作機の導入

当社グループは、創業以来培ってきた経営資本を基盤として、新たな価値を創出してきました。今後も、事業活動を通じて価値 創造の源泉である6つの経営資本(「財務資本」「製造資本」「知的資本」「人的資本」「社会関係資本」「自然資本」)を戦略的かつ 体系的に強化し、持続的な成長を目指していきます。

資本 (2024年度)

資本の高度化に向けて

人的資本

■「リケンテクノス ウェイ」を体現する グローバルな人財

従業員数

1,886名 (世界8ヵ国)

一人当たりの 育成費用

133千円

当社は、社員一人ひとりが力を発揮できる最適な仕事と環境を提供するととも に、グローバル競争に打ち克つ人材育成(投資)を積極的に行い、社員の成長 と活躍を応援しています。また、更なる価値創造を目指し、多様な人材の活躍 を促すため、ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンの推進に取り組んで います。

重点テーマ

- 成長戦略に基づく人材育成計画の遂行
- ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンの推進
- 従業員エンゲージメントの向上

社会関係資本

- グローバル展開
- ステークホルダーとの丁寧な対話

海外拠点

12 拠点

サプライヤー数

約900社

既存株主との面談 169社

グローバルに事業を展開する当社グループは、世界中の取引先との信頼関係に 基づく持続可能なサプライチェーンの構築に取り組んでいます。株主・投資家の 皆様との対話、地域社会への貢献活動を通じて、相互理解を深めています。す べてのステークホルダーとの信頼関係を構築・維持しながら着実な成長を続け ることで、より良い社会の実現に貢献していきます。

重点テーマ

- 人権デュー・ディリジェンスを含むサプライヤーエンゲージメントの強化・ 拡充
- 顧客対応力の強化
- 株主・投資家との対話の充実

自然資本

- 省エネ貢献製品、環境配慮型製品の開発
- 工程内リサイクルによる廃棄物の削減

原材料

302 ft

86.42%

総エネルギー投入量 1,591千GJ

1,053 t 水資源投入量

リサイクル率*

※ 単純 (埋立・焼却) 廃棄物を除く廃棄物量の総廃棄物量比

当社グループは、限りある自然資源を利用して事業を行っていることを認識し、 環境との調和に配慮した企業活動に努めています。環境貢献製品の開発をは じめとする事業を通じた環境負荷の低減や、2050年カーボンニュートラルに 向けた脱炭素の取り組み等を継続し、持続可能な地球環境の実現に貢献して いきます。

重点テーマ

- 事業を通じた脱炭素への貢献
- 購入電力の再生可能エネルギー由来への切り替え、省エネ設備への更新
- 廃棄物削減による環境負荷の低減
- レスポンシブル・ケア活動の推進

15 リケンテクノスグループ 統合報告書 2025 リケンテクノスグループ 統合報告書 2025 16